

宮崎県における国内産農産物銘柄設定等意見聴取会議事録

九州農政局生産部生産振興課

1 開催日時 令和7年12月10日 13時30分～14時30分

2 開催場所 九州農政局宮崎県拠点

3 出席者

【学識経験者】

宮崎県総合農業試験場作物部 部長 三枝 大樹
(以下、「宮崎県農業試験場 三枝」)

宮崎県総合農業試験場作物部 技師 柳田 健志

【登録検査機関】

宮崎県農業協同組合米穀特産推進部米穀特産課 課長 児玉 倫忠
(以下、「宮崎県農協 児玉」)

宮崎県農業協同組合米穀特産推進部米穀特産課 課長補佐 八代 昌積

宮崎県農業協同組合米穀特産推進部米穀特産課 主幹 上野 由尋

宮崎県農業協同組合米穀特産推進部米穀特産課 切畑 奏恵

宮崎県主食集荷協同組合 事務局長 山本 竜嗣

(以下、「宮崎県集荷組合 山本」)

宮崎県JA農産物検査協議会 事務局次長 今村 比呂志

(以下、「JA検査協議会 今村」)

一般財団法人日本穀物検定協会九州支部宮崎出張所 所長 大山 徳久

(以下、「日本穀物検定協会 大山」)

【実需者】

株式会社JA ARUniCo 業務部業務課 課長 高橋 成義

(以下、「JA ARUniCo 高橋」)

【申請者】

宮崎県農政水産部農産園芸課 主任技師 河野 孝昌

(以下、「宮崎県 河野」)

【九州農政局】

九州農政局宮崎県拠点地方参事官室 総括農政業務管理官 若藤 嘉史

九州農政局宮崎県拠点地方参事官室 行政専門員 萬代 哲三

九州農政局宮崎県拠点地方参事官室 行政専門員 一井 昭利

九州農政局生産部生産振興課 検査技術指導官 松田 秀夫

(以下、「九州農政局 松田」)

4 議題

宮崎県における令和8年産国内産農産物の銘柄設定等の申請について

- ・ 水稲うるちもみ及び玄米「南海189号」の銘柄の設定について

(申請者：宮崎県)

5 議事

(1) 申請内容等の説明

- ・ 水稲うるちもみ及び玄米「南海189号」の銘柄の設定について

(申請書等に基づき、「宮崎県 河野」、「宮崎県農協 児玉」及び「宮崎県集荷組合 山本」が説明)

(2) 申請内容等に対する質疑及び意見聴取

【九州農政局 松田】

皆さんお揃いのようなので再開させていただきます。

申請内容についてご説明いただきましたが、説明に補足して申請者以外のところで説明をしておきたいという部分がありましたら、お受けしますが、何かございませんか。

それでは、ご説明いただきました申請内容等につきまして、ご質問等をお受けし、それらを踏まえまして、各関係機関のご意見をお伺いします。

それでは、水稲うるち「南海189号」の銘柄設定につきまして、ご質問をお受けしたいと思います。

なお、事前に募集しました意見書につきまして、提出はありませんでしたので、ご報告させていただきます。

ご質問等はありませんでしょうか。

【JA検査協議会 今村】

先ほど説明いただきましたけども、高温障害の関係で高温登熟性が中ということですが、「ヒノヒカリ」はここ2・3年白系未熟が入っていますが、去年、今年あたり「おてんとそだち」とかはほぼ入っていないし、「にこまる」は若干入ってきていますが、中程度というところのくらいですか。「おてんとそだち」とか「にこまる」に比べるとどうなんでしょうか。

【宮崎県 河野】

「おてんとそだち」が九州の中では高温登熟性が最も強いものされているところですが、すけれども、「おてんとそだち」が強いですので、それよりは劣りますが、「にこまる」と同程度という評価になっております。

【J A検査協議会 今村】

同程度ということであれば、状況によってやっぱり心白なり何なりが出るという可能性はあるということですね。

【宮崎県 河野】

おっしゃるとおりで、過去の、今回、2025年に展示圃を作る前の奨励品種の決定試験においては、県内4か所から6か所の展示圃を作りまして、平均で1.3、2.3、1.1、1.3と、4か年1点台が続いて、1等中心できてはいますけれども、令和4年、2022年に「ヒノヒカリ」の1等米比率は8.8パーセントほどであった過去最低の年においては2等中心となっていますので、それぐらい、高温の年にはやはり2等になってしまう可能性も秘めております。

【J A検査協議会 今村】

ちなみに今年はどうな状況でしたか。

【宮崎県 河野】

今年ですけれども、実績確認中ではありますが、展示圃14か所については1等相当ということで確認しております。いずれも2等以下の評価ではなく、全て1等相当だということで聞き取っております。

【宮崎県農協 児玉】

この「南海189号」に関しては非常に今、ニュース、報道等でもご紹介されていきますので、生産者からの評価、期待感というか、そういったものを我々の方に問い合わせをいただいているところなのですが、実際、その栽培をされている中で、倒伏とかそういったものに関して気にされている方が結構いらっしゃるのですが、栽培上の注意点というか、「ヒノヒカリ」との違いとか、何かあれば教えていただければと思いますが、いかがですか。

【宮崎県 河野】

現地の方からも、稈長が「ヒノヒカリ」並からやや長くなったという例であったり、熟期が遅いので倒伏の懸念があること、また、葉色、葉の色の抜けが遅くて葉色での収穫の判断が難しいといった声があることは承知をしております。ただ、現地の中で、いもち病の耐性であったりとか、あと、まだ栽培を続けていかなければ確認はしきれ

ないのですが、紋枯病などにも比較的罹った例が少ない。茎が挫折するような懸念というのがまだ少ないのかなというところで、肥料を入れすぎると伸びて倒れてしまうけれども、しっかり「ヒノヒカリ」と同じように作っていただいで、「ヒノヒカリ」が倒伏しないような栽培をしていただければ、「南海189号」についても同様に倒さずに作付けできるのかなと考えております。

これらの情報をまとめて、年度内、来年の作付けの生産者向けの栽培マニュアルといったものの配布も検討をしているところです。

【宮崎県農協 児玉】

ありがとうございます。今言われた肥料のタイミングだったり、そのあたり、我々の生産資材部門等もありますので、一緒になりながら、しっかり推進させていただいて、しっかり美味しい米ができるような形にしたいと思っておりますので、その栽培的な、助言的なものをまとめていただければと大変ありがたいです。よろしくお願いします。

【九州農政局 松田】

はい、ありがとうございます。それでは、そのほかに何かございますでしょうか。

それでは質問が無いようですので、私どもの方から若干被る部分もありますが、確認させていただきたいと思っております。

まず、申請者の宮崎県様に3点ほどお伺いします。

今回、申請の「南海189号」については、「ヒノヒカリ」と比較して高温登熟性に優れ、多収ということですが、実際に作付けされた生産者の反応はどうでしょうか。

2点目としまして、今後は、「ヒノヒカリ」から「南海189号」へ品種転換し、生産面積の拡大を図るということでしょうか、作付転換、生産面積の拡大等について、今後の具体的な計画、お考え等があればお聞かせ下さい。

3点目としまして、「南海189号」は「ヒノヒカリ」よりも「極良食味」ということですが、実需者等からの評価は確認されているでしょうか。実需者の評価について、具体的な評価内容等がお分かりであればお聞かせください。

【宮崎県 河野】

まず1点目ですけれども、高温登熟性に優れて多収という点についての生産者の評価、反応というところで、まず、高温条件でも登熟具合が良くて品質が良いことについて、非常に良い評価をいただいていると考えております。本年においても21か所栽培を行っていただいております。特に、西北諸と東臼杵南部ですね、都城、小林、えびのであったりとか、三郷町日向美郷の14か所、14者については1等相当の品質で、良い評価をいただいております。

また、これらの現地においては、30キロ程度は多収という評価をいただいております。また、この「南海189号」について、肥料の要求量がどうやら高そうな形でもあ

りますけれども、一発肥料ではなくて追肥の形態をとった生産者からは、10アール当たり200キロほど多収であったと。「ヒノヒカリ」対比で、「ヒノヒカリ」が450キロ、「南海189号」が650キロといった声もありました。平均的には30キロ、40キロほどということですので、これは極端な例かもしれませんが、奨励品種の現地決定試験、2021年から2024年の4か年においても、109パーセントから129パーセントほど「ヒノヒカリ」よりも多収でした。

試験場の試験、それより遡って9年間においても1割程度多収でしたので、いずれも「ヒノヒカリ」よりも多収ということは期待できるかと考えております。試験段階においても、現地においても多収であったと。ただ、先ほど懸念点で申し上げましたとおり、稈長が伸びやすいことであつたり、熟期も遅いことから、倒伏させてしまう懸念もありますので、それらについては、周知徹底であつたりとか指導マニュアルをしっかりと普及させていく必要があると考えております。

2点目に、作付転換等の今後の具体的な計画ですけれども、県におきましては、令和12年、5年後に1,240ヘクタール、令和6年の主食用米面積の1割程度、10パーセントの1,240ヘクタールの普及を計画しています。令和7年については採種を開始したばかりですけれども、8年度から、当初の目標で申し上げますと、8年に120ヘクタール、9年に280、10年に520、11年に840、そして12年に1,240というような計画で県内全域での生産振興というのを図っていくとともに、普通期水稻の「ヒノヒカリ」の品質低下が著しい地域を優先しながら、採種とともにしっかりと普及させていくということを考えております。現在、この反応が、生産者からも、品質に対して改善を求める声であつたりとかPR戦略などによって、この計画よりも前倒しで達成できる可能性も出てきておりますので、引き続き普及拡大を図っていきたいと考えております。

3番目に、極良食味についての実需者からの評価、具体的なものがあればということですが、まだこちら、流通は本格的にはしておりませんので、評価については具体的には得られてはいないところです。ただ、関係者の食味試験であつたりとか、生産者を含む産地での試食の評価というのは得ております。いずれも「ヒノヒカリ」と同等というところで、極良食味という評価をいただいております。「ヒノヒカリ」を食べ慣れた方からは、甘みが少ないといった声もいただく一方で、粒感があって噛みごたえがあつて好みという評価もございます。放冷後の評価も良好であると考えております。県の方から3点、以上です。

【九州農政局 松田】

ありがとうございました。

続きまして、宮崎県農業協同組合様、宮崎県主食集荷協同組合様にお伺いします。

今後、「南海189号」について農産物検査を実施する予定という事で、品位や特性等の確認を行って来られたと思いますが、品質等はどうだったのでしょうか。特に、当品種は高温耐性品種ということで、本年産については九州各県において高温障害の影

響が出ておりますが、そのあたりほどのように感じておられるでしょうか。

【宮崎県農協 児玉】

農産物検査協議会等とも、確認をしながら進めさせていただいておりますけども、現状、我々が見た範囲では、非常に品質的には良好な形かなと捉えております。といいますのも、やはり普通期の主力である「ヒノヒカリ」が近年かなり乳白が多く、等級検査が悪い状態ということになっておりますので、そういった厳しい現状の中から比較すると、非常に粒が綺麗で、また見た目もやや大きいということで、非常に期待感が持てるものではないかと捉えております。

また、高温の障害につきましても、今年度試験的に作られたものを拝見させていただきましたけども、やはり「ヒノヒカリ」より明らかに乳白等が無いということがありますし、また、千粒重が若干「ヒノヒカリ」よりも大きいということも、やはり見た目から伝わってくるものもありますので、我々、当然検査もしていきますけども、販売という部分においても、非常に今の取引先からも期待されるお米になっていくのではないかと期待感を持っているという状況です。

【宮崎県集荷組合 山本】

まず、検査を行っていく予定という話の中で言いますと、私ども10数トンの作付、収穫とか、試験的に行っています。それを既に検査を行っています。それが、1等若しくは2等という格付けしているのが現状で、その「ヒノヒカリ」と比べてどうなのかという中で、「ヒノヒカリ」はほぼ1等が、例年というか、今年もございませんでしたので、総じて、2等若しくは3等という「ヒノヒカリ」の中で、「南海189号」については1等、ほぼ1等に近い2等だったり、3等にしなきゃいけないっていうような内容のものはありませんでした。

また、生産者から色々な話を頂戴した中では、収量も良いと、検査の中でも非常に玄米として見目が良いというような感想を聞いてますので、これからそういったものを押し進めていくことが大事なのではないかと思っています。

検査を私どもが行ったという事実があるので、当然、銘柄はないのですが、銘柄をうたわずに検査を実施していることについて問題はあるのでしょうか。

【九州農政局 松田】

それは、その他で検査をされているということでしょうか。

【宮崎県集荷組合 山本】

それは、それで良いということでしょうか。

【九州農政局 松田】

それは結構でございます。

【宮崎県集荷組合 山本】

宮崎県の河野さんから、先ほどから1等相当、1等相当だったという言い方をされてるので、「南海189号」については、実際に検査をしてるのかしてないのか、公式的な検査はせずに、それが1等だろうな、公式に検査したら1等だろうなという、その言葉の範囲内で1等相当というような言い方をされているということですか。

【宮崎県 河野】

はい、おっしゃるとおりです。

聞き取りになってしまいますので、出荷された生産者に、その所管する、試験した普及センターが聞き取った聞き取り様式の中で、検査にそれを出して、まだ銘柄が取れていませんので、「南海189号」としてではなく、その他として見た時の、1等に該当するのであれば1等相当、2等が中心であれば2等相当と返してくださいという聞き取りの中での1等相当というところです。

【宮崎県集荷組合 山本】

参考までにお尋ねしますが、JA宮崎さんは公式な検査をされているのですか。

【宮崎県農協 児玉】

我々の方では、公式な検査はしておりません。

【九州農政局 松田】

ありがとうございました。相対的に言って、対象品種である「ヒノヒカリ」より品質的にも良好だという形で考えてよろしいですか。

【宮崎県農協 児玉】

はい。

【九州農政局 松田】

ありがとうございました。それでは、その他にご質問等はありませんでしょうか。

【九州農政局 中村】

先程、進行役から実需者の評価というような話もあったと思いますが、今日、JA ARUniCoさんもご参加されていますので、卸という部分でお聞きしますが、こちらの品種については、まだ食味等について確認されたことはないですか。

【JA ARUniCo 高橋】

令和6年産、昨年度のものは試食させていただきました。これを弊社の方で、社員みんなに食べていただいて、評価的には「ヒノヒカリ」と同等と、若しくは「ヒノヒ

カリ」より美味しいという声も一部ありました。

【九州農政局 松田】

その他に何かございますでしょうか。

それでは、銘柄及び品位の鑑定について、登録検査機関の皆様にお尋ねします。先程、申請品種のサンプルを確認していただきましたが、農産物検査において、銘柄鑑定が可能かについて、また、農産物規格規程に定める品位規格の適用が可能かについて、両方とも問題なしということによろしいでしょうか。

【J A検査協議会 今村】

品位等について鑑定する分には銘柄の鑑定等全然問題はないのですが、ただ、粒形というか、大粒で長いという粒形で、今までよりも、例えば「おてんとそだち」や「にこまる」よりももっと大きいということで、検査員として見慣れていないので、サンプルを早く配布していただかないと、そういう粒形だとかいう言葉だけでなく、ぱっと見た時、何となく充実不足みたいに粒形が細く捉えてしまいがちになってしまうので、できればサンプルを早く配布していただければ助かると思います。今回こういう特徴ということが出ていますので、それに沿った鑑定はできると思っています。

【九州農政局 松田】

サンプルの提出等については予定とかはどういった形になってますでしょうか。

【宮崎県 河野】

準備ができ次第ということですね。具体的にまだ決まっているものではありません。

【九州農政局 松田】

来年度からこの銘柄が設定されたら、実際の検査が始まります前に、間に合うようにサンプルを提出していただけるということによろしいですか。

【宮崎県 河野】

はい。

【宮崎県集荷組合 山本】

県の方でサンプルを作って登録検査機関に配布するということですか。

【J A検査協議会 今村】

集荷組合さんは実際、検査しているから、検査員さん見られてると思いますが、う

ちの農協系は検査をしていないので、限られた人が集荷した分を少し見ただけで大半の検査員は見ていません。今までよりも粒形がかなり違いますので、これが「南海189号」の粒形ですよと知らせとかなないと、突然、検査時期に出てきた時に、今までから見方からすると、疑問を持つ人たちが出てくると思うので、粒形が分かる代表的なサンプルを欲しいということです。

【九州農政局 松田】

サンプルについては、宮崎県様から私どもに試料をいただきまして、私どもの方から検査機関の方にサンプルとしてお配りするっていう形になります。

【宮崎県集荷組合 山本】

九州農政局からいただけるということですか。

【九州農政局 松田】

はい、そうです。検査機関には配布いたします。ですから、県拠点を通じてになると思いますけども、宮崎県様から試料いただきまして、それを各検査機関に私どもの方から配布する形を取らせていただきます。

【宮崎県集荷組合 山本】

サンプルとは、玄米の現物のことをおっしゃっているのですか。

【九州農政局 中村】

そうです。玄米の現物、展示してあるサンプルと同じものです。

【宮崎県集荷組合 山本】

量はどのくらいを想定されてるんです。

【九州農政局 中村】

100グラム程度です。

【宮崎県集荷組合 山本】

1検査機関といえども、JAさんもそうですけど、検査員が何十名もいますが。

【九州農政局 中村】

なかなか全検査員分を配付するとなると、量的に厳しい部分もありますので、100グラム程度お渡しして、検査機関で検査員さんを集めていただいて周知していただくというような形になります。おっしゃるように検査員全員分配付できれば一番良いのですが、それは無理なので、そこは検査機関内で工夫をしていただきたいと思います。

いうところでは。

【宮崎県 河野】

用意するサンプルについては、「南海189号」の玄米ですけれども、1等、2等、3等とかいったものの準備は難しいと思いますが。

【九州農政局 中村】

展示してある品物と同じぐらいのものをいただければ結構です。

【九州農政局 松田】

銘柄の検査なので、等級別でなくても結構です。銘柄と、あと、その粒形とか、形質の部分を見るので、極端にくず米というか、痩せた玄米とかが多く混ざっていると問題ですけども、今日提出していただいた試料ぐらいであれば、全然問題ないと思います。

【宮崎県農協 児玉】

1等、2等と3等の格付けは、通常の流れの中で決まった基準で、比較して行うということですか。

【九州農政局 松田】

そうです。品種の特性を見ていただくために、サンプルをお配りするという形になります。

【宮崎県農協 児玉】

提出する量というものも決まっているのですか。

【九州農政局 中村】

要領上、最低1キロとなっています。1キロは下減ですので、1キロ以上はいただきたいということです。

【宮崎県 河野】

令和7年のものを提供して、令和8年にお配りいただくということですか。

【九州農政局 中村】

そうですね。令和7年産のものを令和8年産用に見本として配る形です。最低でも1キロはいただきたい。だから、1キロぐらいなので、要領上もそうになっていますけど、なかなか全員分ってというのが難しいので、ご理解いただきたいと思います。

【宮崎県集荷組合 山本】

等級が付された品物ではないのですね。

【九州農政局 中村】

結局、これは銘柄鑑定用の品物なので、等級までは考えていません。ただ、銘柄鑑定ですから、極端に規格外の品物ではどうかということはありませんけども、1等、2等相当であれば、銘柄鑑定用の品物としては問題ないと思っております。肌ずれとか酷いと、ちょっと困りますけど。

【九州農政局 松田】

銘柄の鑑定等については、問題ないということによろしいですか。

(検査機関一同、「はい」)

【九州農政局 松田】

次に、宮崎県様に、先ほどお話しされていたことと被る部分もありますが、種苗法の関係について、この品種は宮崎県様の育成品種ということで育成者権の侵害を及ぼさないと申請書にも書いてありますけども、その件については問題なしということによろしいですか。

【宮崎県 河野】

はい、こちらは問題ございません。

【九州農政局 松田】

はい、わかりました。

それでは、その他に何かご質問等はございますでしょうか。

(一同、「なし」)

【九州農政局 松田】

それでは、今までの経過なりご質問を踏まえまして、「南海189号」の銘柄設定につきまして、設定の可否を含め関係機関ごとのご意見をお伺いします。ご意見については、申請者の宮崎県様を除く関係機関の皆様に順次お伺いしますので、よろしくお願ひします。

【宮崎県農業試験場 三枝】

「南海189号」につきましては、育成に13年ほど掛かっている品種ではございますけれども、非常に「ヒノヒカリ」並みの良食味、また様々なもち病等の耐病性

等も兼ね備えている作りやすい品種ということでも考えております。食味につきましても非常にいいと考えておりますので、ぜひ設定についてよろしくお願ひしたいと思っております。

【JA検査協議会 今村】

銘柄判定等については、問題なく鑑定できると思っております。

【日本穀物検定協会 大山】

異議なしで、設定をお願いします。

【JA ARUniCo 高橋】

実需としてですけど、やはり宮崎県産、「ヒノヒカリ」を先頭に最近ずっと高温障害に侵されています。これに代わる品種、お客様が手に取る中で白いお米というのは抵抗があるので、こういう良い品種、きれいなお米をしっかりと消費者に届けるというところもありますので、しっかりとこのお米を作っていて、しっかりと販売していきたいと思っております。

【宮崎県集荷組合 山本】

農産物検査に全く問題はないと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

【宮崎県農協 児玉】

まさに皆様おっしゃったとおりで、特に問題はないかと思っております。我々、生産者の団体でもございますので、生産現場の方が今、現状「ヒノヒカリ」に対して、高温障害等の影響で苦しんでおられます。この新しい品種が多収であり、また等級格付けも良いということであれば、生産者の経営の安定等にも繋がっていけるものだと思っておりますので、ぜひ設定をお願ひしたいと思っております。

【九州農政局 松田】

はい、ありがとうございます。皆様方から、それぞれご意見お伺いいたしましたけれども、特に銘柄設定について問題があるとか、反対というような意見はございませんでしたので、この銘柄設定については、「異議なし」という形で整理をして締めさせていただきたいと思っておりますが、それでよろしいでしょうか。

(一同、「異議なし」)

【九州農政局 松田】

ありがとうございます。

はじめに申しましたとおり、本日の意見聴取の結果は農林水産本省へ報告し、これ

を踏まえて本省穀物課において銘柄の設定等を行う必要があると認められた場合は来年の3月末までに改正が行われることとなります。

本日は、皆様から大変貴重なご意見を賜りましてありがとうございました。
それでは、これで私の進行を終わらせていただきます。

【九州農政局 中村】

皆様方にはご協力いただき、誠にありがとうございました。
以上をもちまして、議事を終わらせていただきます。

なお、次第の4「その他」については、特に用意はしておりません。また、意見書の提出に併せまして「農産物検査規格の設定・改正に係る意見等」を募集しましたが、特にありませんでした。

農産物検査関係について、他にご意見・ご要望等はありませんでしょうか。

(一同、「なし」)

【九州農政局 中村】

それでは、これをもちまして、令和8年産の国内産農産物銘柄設定等に係る意見聴取会を閉会いたします。

皆様、お忙しい中に御協力いただき誠にありがとうございました。